

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079200319		
法人名	有限会社 豊		
事業所名	グループホーム 豊		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡香春町採銅所5384番地1 (電話) 0947-32-6625		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年12月2日	評価確定日	平成22年1月13日

【情報提供票より】(平成21年11月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 6,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (11月18日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	9 名	要介護2	6 名
要介護3	0 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83 歳	最低	55 歳
		最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金子内科医院・糸田町立緑ヶ丘病院・中津原歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

その昔、大宰府官道の宿駅であり万葉集にも詠われた「万葉の里」香春町の自然豊かな田園地帯に、「グループホーム豊」があり、有料老人ホームが併設されている。2階建ての施設の広い庭や玄関周りは、昔懐かしい土間に囲まれており、入居者の方々の安らぎの場となっている。居室の窓は大きく設けてあり、四季折々の変化を眺め、肌で触れ、夫々がゆったりとした日々を過ごせる環境にある。ホームでは日頃の散歩やドライブ以外にも、家庭菜園への取り組みや個別な外出支援・地域住民との交流など、生活活性化に力を入れており、スタッフ一同は理念に基づき、一人ひとりの願いや要望が実現され、わが家(我が家)にいるような生活支援を全力で行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流については、法人以外の事業所とは双方の合意が必要であり、今後の課題としたい。思いや意向の把握については、センター方式の学習会を持ち、職員全員が日頃の生活から見出すように心掛けており、良い成果を得ている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	新たな理念を職員全員で考え、利用者本意の解り易い言葉とした。その理念を一日も早く浸透させサービスの向上へ活かすため朝のミーティング時にみんなで唱和すると共に学習会や日々の実践の中でとり組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、定期的開催されている運営推進会議には、入居者代表の参加もあり、運営状況の報告以外にも、要望や質問等についても全員で検討する機会となり、サービス向上に役立っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	苦情受付担当者及び責任者を設置し、入居者・家族より積極的に要望を受け付けている。些細な事であっても検討課題とし、経営者を交えて会議を開き、対応策を考え納得が得られるまで説明するなど、解決に向けた努力を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で開催される行事には、役場や郵便局、地域住民(職員も含む)等より情報を得て、春の梅祭り・秋の農業祭等に入居者の方々とともに参加している。誕生会では地元の婦人会の日舞・和楽器演奏の披露があり、また近隣の農家や商店の方々と日常的な交流が行なわれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「ゆたかでは入居者様一人一人が主役です。私達は、そのお一人一人を全力でサポートさせていただきます。」を約束の柱として、具体的な支援のあり方5項目を掲げている。地域密着型サービスとしての意義をふまえた、独自の内容となっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者・職員により作り上げられた理念であり、毎朝唱和し、日々のサービスに結び付けて考え、確認することを一日の始まりとしている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域で開催される行事には、役場や郵便局、地域住民(職員も含む)等より情報を得て、春の梅祭り・秋の農業祭等に入居者の方々とともに参加している。誕生会では地元の婦人会の日舞・和楽器演奏の披露があり、また近隣の農家や商店の方々との日常的な交流が行なわれている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたっては、管理者・計画作成担当者・事務長・主任等が主体となり実施し、職員の意見を反映させるように取り組んでいる。評価結果はミーティング時に報告し、改善に向けての検討を行なっている。今後は全職員の、より積極的なかわりにも期待したい。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、定期的に行われている運営推進会議には、入居者代表の参加もあり、運営状況の報告以外にも、要望や質問等についても全員で検討する機会となり、サービス向上に役立っている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 豊

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	介護保険のみならず、入居者の方々の暮らしに関する様々な社会保障制度について知識を深めており、関係する公的機関との連携や情報収集、助言を受けながら、生活の質の向上につなげている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、権利擁護に関する制度を活用している方がおり、関係機関との連携を図りながら支援している。今後は、職員全員の理解を更に深めながら、家族や地域への積極的な情報発信を行う等、福祉拠点としての役割りを担うことにも期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月「ゆたかだより」を発行し、行事や外出時の様子を写真とともに掲載している。また、個別の連絡ノートがあり、担当職員が日頃の健康状態や生活状況を記入し、家族来訪時に報告し、確認して貰っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	苦情受付担当者及び責任者を設置し、入居者・家族より積極的に要望を受け付けている。些細な事であっても検討課題とし、経営者を交えて会議を開き、対応策を考え納得が得られるまで説明するなど、解決に向けた努力を行っている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	安定したサービスの提供に向けて、新たにリフレッシュ休暇を導入している。ホーム全体での馴染みの関係づくりを行い、やむを得ず離職等が発生した場合にも、重複勤務等に配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人代表者や管理者は、職員の採用にあたり人柄や心配りの出来る人材を重視しており、年齢や性別等による排除は行なっていない。充実した職員育成体制が構築されており、研修機会の確保・資格取得への積極的な支援が行われている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 豊

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	認知症ケアを理解することを第一としている。定例会議の中で、意思疎通困難な入居者の方々とのコミュニケーション等について事例検討を行い、スピーチロックのアンケート結果をもとに勉強会を行う等、職員の意識を高めるよう取り組んでいる。高齢者虐待防止や行動制限廃止についての外部研修に参加し、内部研修へと反映させている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	働きやすい職場環境づくりの成果が、職員育成の充実へとつながっている。段階に応じた研修計画があり、内外の研修・勉強会への参加を実施し、スキルアップにつなげている。資格取得に関しても、資金面でのバックアップ等、積極的な支援体制がある。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	法人内の連携・交流が活発に行なわれており、運営やコンプライアンスに関する相談や助言を得ている。今後は、地域密着型サービスとしてのネットワークづくりに向けて、牽引役を担う事にも期待したい。		法人内での交流や情報交換は、行事や会議等を通じて行われており、今後は行政等の協力を得ながら、同業者とのネットワーク作りや勉強会参加などで交流を広げることで、サービス向上に繋げて欲しい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族と面談し、現在の生活状況をよく伺い、入所後の安心した生活維持の大切な情報としている。家族と相談しながら、見学や体験入居などで他の入居者の方々と職員と、少しずつ馴染めるよう配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の方々は人生の大先輩であり、これまでの様々な体験を学ばせていただく貴重な機会であると捉えている。特に若い職員は、学ぶ姿勢を大切にして自分の成長に役立てて欲しいと考えている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 豊

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	意思や希望を的確に表現できない方には、チーム全体でセンター方式等を活用しながら、QOLの維持・向上につなげるよう努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族より得た情報とニーズを、MDS方式による課題分析後にサービス担当者会議やケアカンファレンスを行い、本人・家族の納得と同意を得て計画の決定としている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	毎月のモニタリングを行い、計画設定期間以前であっても状況の変化や新たな要望があれば、担当職員や本人・家族と話し合い、必要に応じて計画の見直しを行い、現状に即した計画に変更している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	自宅への外泊や外出支援については、個別の要望に柔軟に対応している。健康管理についても定期的な診療以外に、主治医とは24時間の医療連携を確実にこなしている。またボランティアの訪問や関連施設の夏祭りに参加したり、保育園児との交流など地域や家族との交流を大切に支援している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医は本人・家族の希望を第一としている。受診については訪問診療以外に通院介助も行っており、健康面での支援や緊急時も含め、本人・家族が安心出来るよう関係者一同が連携し、適切に対応している。		
		本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 豊

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居者の高齢化や重度化に伴う医療ニーズへの対応や、終末期ケアの取り組みについては、本人・家族へ説明し同意を得ている。職員も入居者の方々が最後の瞬間まで望む生活を送り続けることを願い、出来る限りの支援を行いたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日常生活支援での個人の尊厳への配慮等については学習会を開き、マニュアルに沿って理解を深めている。また個人情報や記録物については、法令遵守を周知徹底している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	大まかな日課はあるが、入居者の意向に添った支援を介護の基本としており、起床時間や食事のペース・入浴等、可能な限り個々に合わせた支援を行っている。今年度はアンケート調査で朝食時間を変更し、入居者・職員ともに余裕ができた。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	園外菜園での収穫を楽しみ、食卓を飾る事もあり、楽しみとなっている。調理の下ごしらえや後片付けに、出来るだけ関わってもらえるよう支援している。みんなで食べることで話題が広がり、よいコミュニケーションの場になっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的な入浴日の設定はあるが、状況に応じて、足浴やシャワー浴等、柔軟に支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 豊

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃の生活の中で、少しでも役割を持って頂けるよう、食事の手伝いや洗濯物の整理・家庭菜園の手伝いなどお願いしている。併設のホームの方達とのレクリエーション活動や会話なども気晴らしの支援になっており、その他図書館へ行ったり、グランドゴルフへ参加したり、スーパーへの買い物は金銭管理を自分でされるなど、一人ひとりの希望を大切に支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブや買い物等、希望に応じて可能な限り支援している。ホームの前に歩道が整備中であり、近くに道の駅が出来たので外出の楽しみが増えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていない。入居者は自由に広い庭へ出ることができ、また来訪者も自由に入ることができる環境にある。国道に面しており、交通量も多いため、門のシャッターは車の出入り以外は閉じている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に沿って消防署の協力のもと、災害訓練を実施している。また自主訓練として、全ての入居者の方々の参加や、併設施設の職員・入居者の方々にも協力を依頼し、連絡網を整備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示を参考にし、栄養士の作成した献立表により、一人ひとりの身体状況に合わせた調理法で、個別的な支援をしている。		

グループホーム 豊

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は、ゆったりとくつろげるようにソファを置いたり、戸外にはベンチを設けている。季節の変化を感じて貰うため壁紙に変化をつけたり、季節の花を飾るなど配慮している。室温や換気・安全面への配慮・清掃にも心掛け、常に快適に過ごせるよう空間づくりが行なわれている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	一人ひとりの方々が、快適に、またできるだけ自立した生活ができるような居室づくりを支援している。使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、身の回りの品は、入居者とともに買い物に出掛けている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			